

掃水まちづくり協議会

たより

掃水まちづくり協議会
事務局
市民センター内
発行H19・2・1

所感

連合会会長 中西義彦

今年も一カ月が過ぎ、立春ももう直ぐでございます。年齢を重ねるごとに、時の過ぎるのがますます早くなってきたように感じられます。

年初めから厭な事件が続きます。妻が夫を、兄が妹を殺してバラバラにするという残酷な事件が、この松阪でも二件の殺人事件が発生しました。老舗のお菓子会社は賞味期限・消費期限が切れた商品を販売したと、テレビは報道しています。そのテレビ会社は、捏造した資料に基づいた放送をやっています。又、去年十二月に行った櫛田川クリーン作戦では、二時間ほどの間に軽トラック一〇台ものゴミがありました。

美しい国日本、安全な国日本、勤勉な国民、「恥じ」

「はしたない」、「はずかしい」、「謙虚」、「おくゆかしい」こういった言葉を思いおこすのは単なる郷愁であり、回顧趣味なのでしょうか。いったい日本はどうなったのでしょうか。なっていくのでしょうか。

当櫛田地区におきましては、去年十月「掃水まちづくり協議会」が発足いたしました。今年の大きな目標に「挨拶運動」を掲げております。家庭で、家族で、学校で、職場で、地域で、向こう三軒両隣が、みんなが元気に、仲良く明るく挨拶を行えるようになれば殺伐とした世の中も少しは良くなるのではないかと考えております。皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが連合会活動につきましては、地域住民の皆様方には大変お世話になっております。紙上をお借致しまして厚く御礼申し上げます。

寒さ厳しきおりから皆様方にはご自愛くださいますようお願い申し上げます。



参加しよう

協議会行事

あいさつ運動の推進に ご理解と協力を!

青少年育成環境部
部長 和田 達夫

当部会では、まちづくり協議会の本年度推進事業として「あいさつ運動」の推進を担っています。

この事業の特色は、保護者・学校・地域が一体となり取り組もうとしていることです。ともすると、今までは学校だけに任せきりとなり、肝心の保護者や地域が十分に参加して仕切れていませんでした。今回は、まず学校であいさつ

の大切さを児童に指導していただき、それと同時に

あいさつについての児童の考えを標語に表し、地域に看板として配布・設置しようとしています。

保護者の皆様には、家庭の中からあいさつを推進していただくこと、つまり、家族ぐるみで朝のあいさつを実践していただくことを大切と考え、お願いしたいと思っております。また地域に対しては、自治会にお願いし、標語として表した看板を地域の目立つところ、設置し、地域の中であいさつを交わして推進していただくよう考えたいです。つまり、保護者・地域・学校と三者が連携をとり、力をあわせて取り組みます。看板の出来上がりは三月になるかと思うのでありますが、どうか、家庭や地域で挨拶を実践していただくことを切にお願いします。

みんなで作ろう! 「手作りこんぱく」

田楽づくり
参加者募集中

掃水はつらつクラブ
代表 野中 典

保健福祉部会では、地域の方と子ども達と一緒に「こんぱく」を作りたいから、田楽を食べよう」と次のように計画しました。

とき 三月四日(日)
受付 十二時三十分
開会 十三時
ところ ワークセンター

松阪(上川町) 現地集合
対象者 地区内の小学生以上の方(小学生は、保護者同伴で)

持ち物 エプロン・三角巾・ふきん・手拭タオル等
参加費 一人につき百円
定員 四十人(応募多数の場合は、抽選とします)

申込方法 二月十六日(金)までに市民センターへ(電話二八二六七五)

できるだけ多くの方に参加していただけるように会場設定しましたが、遠方です。希望の方は申込時にご遠慮なくお申し出ください。

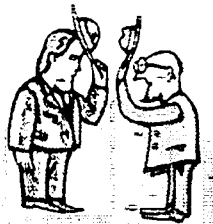
会員さんのご意見

「まちづくり」について
私のひとりごと
みどり苑 川北敬子

「櫛田」という歴史のある地区の片隅に、みどり苑として、皆様の仲間に入らせていただき、早、三十余年の年月が過ぎました。この地で育った子ども達も掃水小学校でお世話になり、またその子どもが今、小学校に入学させていただいている姿を見ながら、うれしさと懐かしさでいっぱいです。

さて、みどり苑も少子高齢化が進み、以前と比べると、子ども達、特に小学校に通学している児童数の減少には驚きを隠せません。これから、一地域人として、どの様な事を心掛けていくべきか、各人が、じっくりと考える時期になってきたのではないかと、思うこの頃です。

去る、二千年四年九月に現在の紀北町は記録的な台風の影響に遭い、親類が(裏にも続きます)



悩んでいますので、私共も
救援物資をトラックに積
み込んで駆けつけました。
それは何と言葉を掛けて
よいのかと思うほどの被
害でした。畳、ふすま、家
具、殆どの電化製品、洋式
トイレ、衣類、食器類、そ
の他数え切れないものが、
泥や、汚水で使用不可能な
状態になり、また、思い出
の詰まった何冊かのアル
バムが泥水まみれになり、
玄関前に積み上げられて
いるのを目にしたときに
は、唇を噛み締めずには
られません。そんな事
態のときでも、ご近所の人
達は、疲れた顔をしながら
も、声を掛け合っているの
です。人の心と心の触れ合
いまでは、災害に犯されな
かったのです。



あれから、年月が過ぎ、
家の中は、見違えるように
殆どのが新品になり、
家族が無事であったこと
の幸せを噛み締め、無傷で
あった仏壇とともに感謝

皆様へお願い

役員改選について

私は、この光景を見続け
ながら、少しずつですが、
日常生活を送りながらで
も心がけると良いと思っ
たことの一つに、いま、話題
となっている大きな災害
でなくても、いざという
きの為には、ご近所の皆様
方と、「朝・夕のあいさつ」
からでもよいのです。今ま
で以上に声を掛け合っ
て、世間話でもよし、いつも同
じ話題の繰り返しでもよ
し、元気な顔を見せ合いな
がら、また、お互いの健康
を気遣いながら、一つの
「みどり苑」という地域か
ら、徐々に、無理をせず、
急がず、輪を広げていくこ
とによって、それが掃水地
区全体に広がり、元気のあ
る、そしてあたたか味のあ
る「まちづくり」になるの
ではないでしょうか。・
私のひとりごと、ちよっ
ぱり、声が大きくなったか
な。



私たち、榎田地区(掃水
校区)では、昨年自分たち
でこの地区を変えよう、自
分たちのことは自分たち
で考え、安心のできる町を
作ろうということで「掃水
まちづくり協議会」を立ち
上げました。つまり、地域
の細かいところまで見て、
細部を大切にしようとい
うことで協議会を作りま
した。

しかし、この地域も例外
でなく少子高齢化はどん
どん進んでいます。昨年、
この地域で誰にも見取ら
れず、死後数日たつてから
新聞がたまっているとい
うことで死亡が判明した
という方がいました。
また、民生委員さんが訪
問すると民生委員さんを
待ちかねている老人が見
えるそうです。広報を配布
してくれる町内会長(組・
班長)さんもただポストへ
掘り込んでいくだけで声
をかけてもくれないなど
と訴える方もいるそう
です。

誰もが人と話をしたく、
日々が寂しいわけです。近
所の方と関係がもちたい
わけです。つまり、向こう
「三軒両隣」という昔あつ
た心のよりどころが今は
なくなつてしまいました。
ところで今、ほとんどの
自治会、町内会(組・班)
では役員が一年で順繰り
交代になっています。「な
ぜそうなのか」という理由
は、役員になつてもなかな
か気ままな方もいて等し
くやつてもらわれないと自
分ばかりやつていられた
い、みんな平等にしてほし
いというのが大きな理由
です。忙しくて誰もなり手
がないということ。誰
もが、なり立ての一年とい
うのは行事をこなし、伝達
事を正しく伝えることで
精一杯です。

地域を見直し、先のこと
を考え、問題点を見据えら
れるように役員を選ばな
いと、冒頭で述べた悲しい
出来事はこれからも続き
ます。
人間は元気な時ばかり
ではありません。何時まで
も仕事ができるわけであ
りません。いつまでも周
りに家族がいるとは限りま
せん。

今、真剣に自分のこと、
地域のことを考える必要
があります。次の役員の時
期は何とかして二年にし
たいものです。なり手はき
つというと思います。



資源物回収について

資源物回収日のことで
す。一般ごみを資源物と混
ぜて、あるいは一般ごみそ
のものを資源物回収日に
持ち込む人がいるよう
です。またそのようなごみは、
当番のいない早朝に出さ
れています。
そのような時、当番の方
はもう一度分別し直して、
一般ごみは自分の家庭に
持ち帰り、ごみ回収日に出
しているとのこと。
当番の方も見つければ
注意しなければなりません。
一部のルールを守らな
い方により、朝から気まず
い思いをしたりするなど
迷惑を受けています。お互
いにもう一度、市から配布
された資源物回収のチラシ
(「資源物の出し方・分

け方」と「ごみの出し方分
け方」)を読むなど気を付
けたいものです。

たより原稿募集について
協議会では、この便りを
できるだけ多くの皆さん
に読んでいただけるよう
に、皆さんの目線に沿った
ものにするために、一般
員さんからも原稿を募
ります。たとえば「協議会に
思うこと」、「協議会に期待
すること」、または「〇〇
はこうあるべき」等とど
のような内容の原稿でも結
構です。自分の考えを述
べていただきたく思います。
原稿用紙一〜二枚程度で
よろしく願います。希
望される方は、自宅電話番
号を添え、毎月十五日まで
に市民センターへ提出を
お願いします。

昔からの言伝え(その一)

今年の初午大祭は、三月
一日です。「初午が早いと
火事が多い」と言われてい
ます。地域のみなさま、火
の元には十分注意して
ください。

